

【 資料 2 】

第 2 次屋久島町観光基本計画 「 骨子案 」

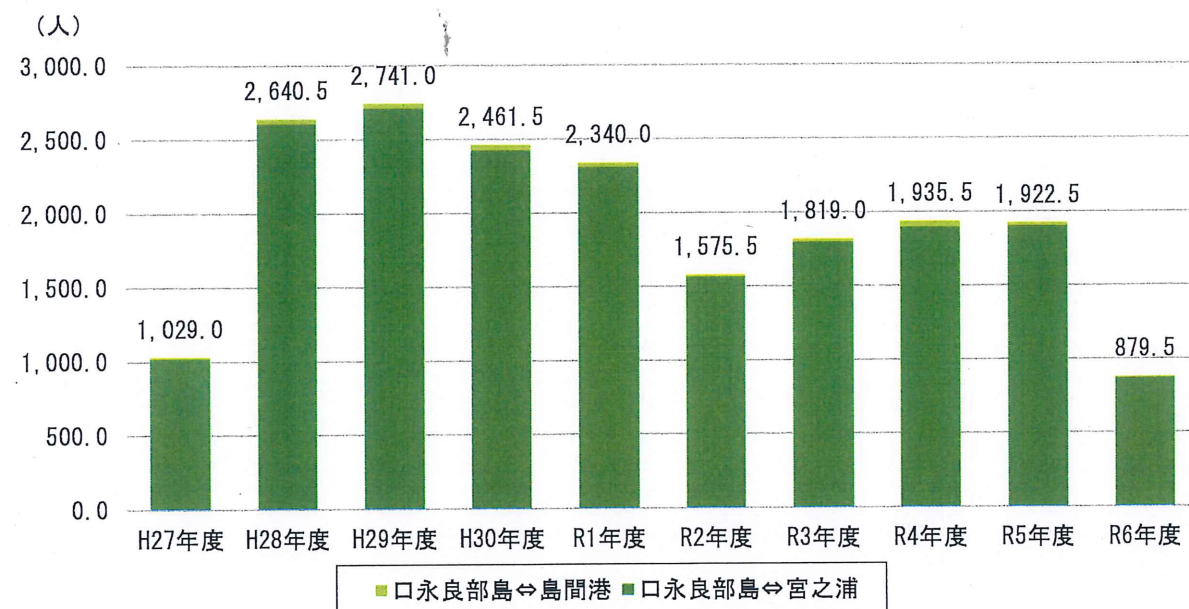
担当者会（第 3 回）意見まとめ

03 その他データから見る現況

(1) 口永良部島への入込者数

口永良部島への入込者数は、平成 27 年度は口永良部島の大噴火により少なかったと考えられます。その後、平成 29 年度をピークに減少傾向となっており、新型コロナウイルスの影響により令和 2 年度に大きく減少しました。その後、回復傾向ではあるものの、新型コロナウイルス拡大前の水準には戻っていません。

月別の入込客数は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言や GoTo トラベル事業等の政策動向の影響を受け、年によりばらつきがあるものの、直近 5 年間を平均して 7 月、10 月、3 月が多く、12 月～2 月の冬季期間が少ない傾向となっています。



コメントの追加 [金城 立樹3]: 担当者会議③

口永良部島の入込客数について、車両搭載の場合は乗客数が分からない。確実なデータを得られるよう、役場の取り組みをお願いしたい。インバウンドも少なからず来ており、確実な数値が把握できると、屋久島と連携した取り組みなども考えられる。

01 屋久島町観光の**基本理念**

世界自然遺産登録は、「屋久島の価値」の恒久性や普遍性が世界に認められているということであり、さらに屋久島憲章等にも則ったものであることから、前計画で掲げられた理念【エコツーリズムによる世界自然遺産『屋久島』の価値創造と観光立町】は今後も揺らぐものではありません。

一方、「エコツーリズム」はこれまでのトレンド「サステナブル（持続可能）」な手法であり、今後「リジェネラティブ（再生可能）」を目指していくうえではエコツーリズムに限定する必要はなく、より多様な手段でアプローチしていくべきと考えます。

そこで、屋久島町観光における基本理念を以下のように設定します。

世界自然遺産『屋久島』の価値創造

コメントの追加 [金城 立樹4]: 担当者会議③

現観光基本計画策定当時、基本理念をエコツーリズムの島で行こう、と整理した。屋久島はエコツーリズムでいくべきと考えている。

02 将来像

「持続可能」から「再生可能」へ。屋久島はまさに、再生（リジェネレーション）してきた島です。戦前から林業が隆盛し、大伐採により地域資源の「消費」が進むも、町民の努力と自然への敬意から、反対運動が実を結び、原生林の伐採は中止され、1993年の世界自然遺産登録へと至りました。これらの歴史から、山や森の保全・再生への高い意識を持つ本町にとって、近年の観光トレンドでもある「リジェネラティブ・ツーリズム」は非常に親和性が高いものと考えます。

町民アンケートでは「自然資源を活かした」、「世界遺産登録として誇れる」、「再生型」といったキーワードが多く挙がりました。岳参りに象徴されるように、古くから畏れ敬ってきた自然に対す

03 将来像を実現するための方針

基本理念と将来像を受け、自然環境をはじめとした本町の観光資源は、適正な手段・手法で保全され、そして理解のある観光客が本町を訪れること、この両輪で実現されるものと考えられます。またこれは、国の観光立国推進基本計画や県観光振興基本方針の構成とも合致することから、以下2点の基本方針を設定します。

基本方針1：観光地域づくり

本町の観光資源が世界中から訪れる観光客によって一方的に消費されることなく、来訪者から得た「稼ぎ」が地域の各産業へ行き渡るよう、各産業を連携させる存在として“観光産業”の確立を目指します。

本町の自然環境は世界に誇れるものであり、それを求める観光客がやはり世界中から訪れています。しかしながら、自然環境は消費による消耗や枯渇の恐れがある資源でもあります。そこで、前述の「稼ぎ」を保全・再生へ再投資していく好循環の形成も必要不可欠となります。

世界に誇れる自然環境とともに培ってきた本町の社会文化を観光客に対しても発信し、また観光客からの評価がシビックプライドの醸成を促します。このように、互いに作用することで将来においても本町の社会文化がより良い状態で発展し続けられる仕組みを構築します。

このように、経済、環境、社会文化の3つの要素それぞれの観点での持続・再生、また3要素が互いに作用することによる持続・再生を意識しながら、観光地域づくりを実践します。またこれは、国の観光立国推進基本計画における「持続可能な観光地域づくりの体制整備」という目標、県の観光振興基本方針における「魅力ある癒しの観光地の形成」や「オール鹿児島でのおもてなしの推進」という柱、それぞれに対応する方針として、魅力ある観光地形成を進めます。

コメントの追加 [金城 立樹5]: 担当国会議③

CO2削減に関するJ-クレジット制度について、旅行をすることでそのクレジットを得られ、観光に使える、という取り組みも一案と考えている。

コメントの追加 [金城 立樹6R5]: 担当国会議③

2050年問題について、本町独自の様々な取り組みがあると思う。町民からの要望があれば取り入れていきたい。

基本方針2：観光誘客

インバウンド市場においては、特に「リジェネラティブな旅」や「レスポンスブルな観光（責任ある観光）」に関心の高い、本質的な価値を求める富裕層や長期滞在者を主な対象とします。デジタルマーケティングを駆使し、屋久島の再生のストーリー、具体的なレスポンスブル・ツーリズムの実践例、そしてそれによって得られる深い満足感を世界へ向けて発信し、共感を呼ぶ誘致活動を展開します。

国内市場においては、都市部住民の多様なニーズに応え、「第2のふるさとづくり」を推進します。この「第2のふるさとづくり」を通じて、単なる滞在や余暇活動に留まらず、地域コミュニティとの交流や環境保全活動への自発的な関与を奨励し、関係人口の質的向上と地域への愛着醸成を目指します。また、自然体験を通じた教育旅行、心身の健康増進と内省を促すウェルネスツーリズム、高齢者や体力に不安のある方々も屋久島の自然観や再生への取り組みに触れられるユニバーサルツーリズムのコンテンツにおいても、この「再生」と「責任」の視点を重視し、新たな旅行需要を喚起します。

コメントの追加 [金城 立樹7]: 担当者会議③

屋久島は脱炭素の島であり、ゼロカーボンに一番近い島と認識している。屋久島に来ることが自身のゼロカーボンを目指せる、これも本町独自の誘客施策と謳えるのではないかと考えている。

コメントの追加 [金城 立樹8]: 担当者会議③

本質的な価値を求める方であれば、富裕層でなくとも良いと考える。

(2) 基本方針に対応する指標 (KPI)

基本方針1：観光地域づくりに対応する指標

より良い観光地域づくりにあたり、観光客がただ訪れるだけでなく、町内での消費を促すことで「量から質へ」という大局的な観光政策の潮流も捉えて、町内全体で経済的に潤う仕組みを構築します。

また、町民である皆さん自身が本町に誇りを持てるよう、より良い観光地域づくりの実現とともに、類まれな自然環境を損なうことのないよう永続できる町づくりを目指します。

指標名	現状値 (2024 年度)
個人旅行客の消費額単価	115,135 円
郷土愛や屋久島・口永良部島への誇りが持てるようになった	11.6%
自然景観や環境の保全・整備に関する施策の満足度	33.0%

コメントの追加 [金城 立樹9]: 担当者会議③

個人旅行客の消費額単価を設定しているが、交通費も含まれているか。

島内消費額に限定することはできないか。

航空費が上がると、消費額が上がる、というのは町内における消費額が上がったという判断にはならない。

基本方針2：観光誘客に対応する指標

屋久島空港の滑走路延長は、本町へ多くの観光客が訪れる契機となります。同時に、効果的な観光誘客施策を行うことで、町内への入込者数の増大をねらいます。

また、町民および事業者の一体となったおもてなしにより、本町を訪れた旅行者にとっての第2のふるさととして、何度も来訪したくなるような観光地づくりに取り組みます。

指標名	現状値 (2024 年度)
屋久島への町外入込者数	172,355 人
屋久島への訪問回数 (2 回目以上)	19.9%

コメントの追加 [金城 立樹10]: 担当者会議③

人泊数なども入れるべきではないか。観光消費額の向上に向けて、どれだけ長く滞在したかを確認できるようにしたい。

コメントの追加 [金城 立樹11]: 担当者会議③

国の事業化により「滑走路延長事業」となったため、延伸ではなく「延長」に修正。